a whaling ship
ほげい船

基本理念
私達は心のこもった医療を行い、地域に信頼される病院となることを目指します。
独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

新しい年を迎えて

NHO 高知病院　院長
大串　文隆

新年明けましておめでとうございます。職員の皆さんも平成 30 年を新しい気持ちで迎えられたことと思います。毎年発表される平成 29 年今年の漢字は「北」でしたが、北の字源は向き合わずに背中を合わせる様子から離れていくという意味もあるようです。北が選ばれた理由は不安な世界情勢を表しているのかも知れませんが、昨年の高知病院はむしろ職員がお互い向かい合い力を一つにして直面する課題を解決してきたように思います。その一つが第 71 回国立病院総合医学会の四国高松での開催ではないでしょうか。国立病院総合医学会は平成 29 年 11 月 10 日（金）、11 日（土）の 2 日間、香川県高松市のサンポートホール高松、JR ホテルクレメント高松、レクザムホール、香川県立ミュージアムを会場に開催されました。学会のテーマは「道−明日へ−国立医療の未来を拓く」で、会長施設は四国こどもとおとなの医療センターで高知病院は副会長施設として学会運営に参加しました。オープニングリマークスでは楠岡理事長から機構が独立行政法人化して初めての赤字となり厳しい現状にあることが話されました。特別講演 1 ではカリフォルニア大学教授の中村修二先生から「LED 開発までの苦労−日本とアメリカの違い−」のタイトルで徳島大学を卒業し地方の研究環境の整っていない企業で実績を積み重ね世界との競争に勝った過程やその理由、研究に対するアメリカと日本の違いなど非常に興味ある講演でした。特別講演 2 はリオパラリンピック、ウィルチェアーラグビー銅メダリストの池透暢選手の「走り続けたから掴めた」とのタイトルで、交通事故により瀕死の重症を負い苦痛に耐えながら治療を受け大きな障害を残しながらも復帰し、このスポーツに出会うまでの過程、また銅メダル獲得までの軌跡についての感動的な話でした。学会は第 72 回国立病院総合医学会の担当である京都医療センター小西郁生院長（会長施設）、宮野前健院長（副会長施設）に応援旗が手渡され閉会となりました。参加者は 6,335 名で 2,452 の一般演題の応募があり学会が大成功のうちに終えることができたのも高知病院のスタッフの皆さんが打ち合わせや、会場の下見、現場でのシミュレーションなど学会運営に真剣に取り組み、起こりうる問題を想定し全て事前に解決していたことによると思いますし、これが、高知病院の持つ他の病院に負けない団結力と思っております。また、院長協議会の懇親会では祭屋よさこい踊り子隊のメンバーと一緒に職員の方が本場のよさこい踊りを披露し参加者を楽しませてくれたこともこの場を借りて報告させて頂きます。

平成 30 年は診療報酬と介護報酬の同時改定の年にあたり病院運営は厳しい状況に直面することと思いますが、少子高齢化、人口減少、医療費の増加など避けることができない我が国の現状を考えれば受け入れざるを得ません。国立病院総合医学会のテーマ「道−明日へ−」は国立病院機構にとっての道でもありますし、高知病院の未来に続く道とも言えます。先人から引き継いだ高知病院を未来に大きく発展させていくことは現在働いている職員に課せられた使命です。高知病院の職員は開院以来病院に課せられた国時代の大きな負債を背負って力を一つにして乗り切ってきました。この開院以来培われた団結力で激動の平成 30 年は職員一丸となり輝ける未来への道を切り開いて行きましょう。

年男 としおとこ　年女 としおんな

経営企画室長　島村　嘉人

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。高知病院へ赴任し２年が過ぎようとしています。赴任当初は医事部門の経験が浅く、業務に少し戸惑うこともありましたが、皆様に助けていただきながら新年を迎えることができました。

私自身は４回目の戌年を迎えます。戌年は前年が酉年で「商売繁盛」や「収穫」を意味していて、戌年はその商売成立後、収穫後のアフターフォローの充実や更に周りの人たちと親しくなる「地盤固め」の年と言われており、また、「お産」にも吉年であり、新たに何かを産むという意味で新たなスタートの年としても良いと言われています。

高知県において地域医療構想策定後の推進に向けて地域医療構想調整会議が開催され、今後協議が活発化し、病床機能について踏み込んだ話がされるものと予想されます。

当院においては、院長を中心として職員全員の頑張りにより、病床稼働、経営状況は緩やかに良い傾向となって来ていますが、今後改定される診療報酬、県内の医療・介護の動向など経営に影響を及ぼすものに注視する必要があります。

今年は私も医事部門で学ばせていただいた様々なものを糧にして患者サービスに努め、患者サービス向上の提案や診療・経営に関する分析・情報発信を行い、基本理念にある「地域に信頼される病院」のため医事部門としてできる新たな仕事を生み出し、昨年からの経営状況が今年さらに良くなるよう貢献したいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

呼吸器内科医師　田岡　隆成

新年明けましておめでとうございます。

国立病院機構高知病院でお世話になるようになり、早三年が過ぎました。この場を借りて、各方面でご指導下さった諸先生方に厚く御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

さて、本原稿のお話を頂き、私ごときには特段申し上げたいこともなく、大変苦慮致しました。やむなく、何か良い話題はないかと、「2018 年医療」で検索してみましたところ、ネット上の話題は診療報酬、介護報酬の同時改訂一色でした。改訂内容の是非については、私のような一介の医療従事者の理解の及ぶところではありませんが、2025 年に向けて、一国民としても、一医療従事者としても、我々を取り巻く環境はより厳しくなっているということをひしひしと感じました。こういった大きなうねりの中では、現場の個々の人間はあまりにも小さく、無力でありますが、時代の流れに取り残されぬよう、日々研鑽を積んで参りたいと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。

副看護師長　浜田　裕理

新年明けましておめでとうございます。今回「年男･年女」ということで原稿の執筆依頼を頂きました。11年前、双子の娘の出産でお世話になった国立高知病院に就職し、今日に至っています。年齢も今年で36歳の年女になってしまいました。今年の干支の「戌」にちなんで、嗅覚が優れていると言われる「戌」のように、仕事もプライベートも色んなことに聞き耳を立てて自分を成長させていければと思っております。

仕事面では、2年前の4月に呼吸器センターから整形外科･皮膚科病棟に異動してきました。初めての整形外科･皮膚科病棟に毎日が不安と緊張でいっぱいですが、周りのスタッフや副師長、師長、先生方に助けていただきながら、楽しさややりがいを学んでいます。2015年には日本救急医学会のICLSインストラクターを取得しました。救急院内研修が充実できるよう今後もさらなる知識と経験を積み成長していきたいと思っています。

プライベートでは、子供3人が空手をしており、昨年は西日本硬式空手道選手権大会で長男が準優勝、長女が優勝、次女が3位入賞という嬉しい結果がありました。私も道場では救護班という名ばかりの肩書もありながら、道場生達の相談相手として楽しく過ごしています。空手に興味のある方はぜひ声をかけてください。

今年も1年どうぞよろしくお願いします。

副薬剤部長　和田　一也

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。高知病院に奉職させていただき、もうすぐ4年になると思いますと月日の経つのは早いものとしみじみ感じられます。赴任した当時は右も左も分からないでいましたが、上司や部下に恵まれ、他部署の人にも助けられてここまでこれたことは望外の喜びです。この度「年男年女」の原稿を依頼され、就職した当時を振りかえりましても、それぞれの施設で多くの人々に助けられて今があるとつくづく痛感させられます。今年戌年で私の世代は第二次ベビーブームの頂点に近い人口を有しています。人口が多い分、いままでも熾烈な競争にさらされてきました。受験も厳しく、就職する前にバブル経済が破綻し就職難で苦しんでいたところを思いがけずに国立病院へ職を得ることができました。これからも、同じ世代の人たちに負けないように努力していきますので、さらなるご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いします。

出張健康相談

外科レジデント
山本　麻梨乃

外科レジデントの山本です。

この度、企画課の島村室長を通じて土佐市と越知町役場より貴重な機会をいただき、当院消化器外科花岡医師、吉川医師と山本の３名でそれぞれの市町へ赴いて地域住民の方々を対象に健康相談とミニ講話を行って参りました。

土佐市では【足の健康とフットケア】をテーマに講話をさ

せていただきましたが、伺った公民館では普段より地域の方々が集まって 100 歳体操などを行っているそうで、健康意識が高く、皆さんとても熱心に聞いてくださいました。また、越知町では【消化器がん】【鼠径ヘルニア（脱腸）】について講話を行い、地区別に３度伺いました。特に 11/8 の越知町健康大会では１ブースを設けていただいて講話と健

康相談を行いましたが、その時は延べ人数で約 100 人以上の方が聞きにきてくださいました。

この活動では『こんな症状があったら早めに病院へ相談してくださいね』といった啓蒙としての意義はもちろんですが、

当院がますます地域の方々に密着した医療が提供できることを認知してもらえればと思っています。私個人としましても、対象が常に医療関係者である学会発表などとは違い、普段扱っている疾患についてわかりやすく、そして興味をもってもらえるようなスライドづくりを心がけました。質問や健康相談では思いもよらないことを聞かれたり、普段病院に対して感じていることを伺ったりして、改めて臨床の現場にも生かせられる

ような貴重な経験ができたと感じています。

今回このような有難い機会をいただきました大串院長、土佐市地域包括支援センターの森田様、越知町保健師の西森様、そして企画課島村室長に御礼申し上げます。

第13回 緩和ケア事例検討会を実施しました。

がん性疼痛看護認定看護師
長浦　英世

テーマ「病状不安定でも在宅希望を支えた事例」

緩和ケア事例検討会についてご紹介します。この会は、高知市西部地区のがん緩和ケアに従事する3施設（もみのき病院、かもだの診療所、当院）が中心となり、地域の在宅緩和ケアを支えるメンバーの連携を深める目的で、合同カンファレンスの形で開始しました。早いもので5年目を迎え、先日 11 月 14 日第 13 回を当院にて実施し、院内外あわせ 58 名の参加がありました。

今回は当院が主催施設として、壮年期の男性で在宅での療養を患者さんが強く希望された2症例のカンファレンスを実施しました。主治医による治療経過、がん相談員の支援状況、そして在宅で看取りを行ってくださった訪問看護ステーションからの看取りまでの支援内容が発表されました。

当院の病棟看護師にとっては、終末期の患者さんの在宅での様子や看取りの場を知る機会は殆どありません。今回、訪問看護の患者・家族へのデスエデュケーションの場面や、家族に見守られ穏やかに最期を迎えられた患者さんの様子を聞き、在宅医療・看護の力を再認識できる学びを得る機会となりました。

また、事例を通し、症状緩和の一つをとっても治療病院、在宅、ホスピスそれぞれの立場で患者中心の介入方法に少し違いがあることも明確となりました。特に強い不安を抱えている患者さんに対する薬物療法の方法について、活発な意見交換がなされました。共にがん患者さんを支える医療チームとして、それぞれの立場や認識を理解することは必要です。当カンファレンスはそのためにも非常に意義のあるものになったと考えています。

当院は高知県がん診療連携推進病院です。今後とも高知市西部のがん診療の拠点として地域との顔の見える連携を密にしながら、患者さんにとって真の BSC（ベストサポーティブケア）を目指し、この会を継続させていきたいと思います。

第71回 国立病院総合医学会に参加して

●ベストポスター賞

看護師長
岡林　裕恵

香川県で開催された第 71 回国立病院総合医学会へ2日間参加しました。参加者総数は国立病院機構職員約 6,000 名でした。私は2日目にeポスターセッションでの発表を行い、ベストポスター賞を受賞しました。演題名は「新生児の頭髪へのケジラミ寄生事例の報告」です。

生後6日目の児の頭皮に発見された虫を速やかに病理検査室で鑑別を行い、ケジラミと判明後は感染管理室と迅速に対応を検討・実施することができました。

これまでにない事例でしたが、新生児の環境は清潔なリネンを使用し、面会者を限定している中で発生した事から、伝播経路の特定がしやすく、発生源の早期発見につながりました。発生源が明らかになった時点から児は標準・接触予防策を行い、他の児との接触を避けるよう徹底しました。また、父母に駆除方法を説明し、同意を得た上で地域の保健師に情報提供を行い、早期の家庭訪問での衛生環境・生活・育児環境の確認を依頼しました。尚、フロアからの質問は「新生児同士の伝播について」で、母児同室であり、他の新生児と接触する機会はなく、伝播もなかったことを伝えました。他の施設の産科職員と情報共有できたことは有益であり貴重な経験となりました。

●ベスト 口演賞

言語聴覚士
野々　篤志

第 71 回国立病院総合医学会が、2017 年 11 月 10（金）・11 日（土）に香川県のサンポートホール高松ほか周辺 4 会場で開催され、私は一般演題で口演発表の演者ならびに運営スタッフとして参加しました。この学術集会（以下 , 学会）は、医療に携わる関連職種が多数参加するマンモス学会で、口演発表は各 113 セッションで 700 演題あり、私は栄

養・NST のセッションに、高知病院のリハビリテーション科ならびに NST 委員会の代表と位置付け「5 年間の縦断調査で経口摂取を施行している男性重症児（者）の体重維持での可否に関連する因子」での演題名で応募して発表する機会を得ました。

今学会における口演の発表時間は 7 分・質疑応答が 3 分で、質疑に対する応答の質はもちろん、発表水準の質も求められる時間に設定され、本セッションでは母集団での調査研究の分析や活動報告の有用性などを述べる演題が半数以上占め、私の口演内容も母集団で男性重症心身障害児（者）の体重が 5 年間維持できた群と維持できなかった群を分析し、日常生活動作の自立あるいは介助度合の標的機能を明らかにし、体重を維持する要因に理学療法と作業療法の介入が重要であると報告しました。結果、幸いにもベスト口演賞を受賞することができ、授賞の際には当院の運営スタッフから複数の温かいエールが脳裏を蘇り、壇上で得た感覚は忘れ難いものとなりました。

今後も、何らかの形で臨床研究の成果を高知病院から発信していきたいです。

国立病院機構QC活動報告
優秀賞+アイデア賞を受賞しました

医療安全管理係長
山本　三恵

国立病院機構では「QC 活動」という医療・サービスの質を上げる取り組みを行っております。医療安全管理室では医療安全を向上する目的で平成 28 年度に活動した内容を報告したところ、優秀賞 + アイデア賞を頂いたので報告します。

取り組み内容は、以前配膳に使用していた配膳カート（写真1）を与薬用のカートに有効利用することで、繁雑な作業が軽減でき、与薬直前の確認精度が向上したというものです。

写真１　配膳カート

写真２　与薬カートに変身

平成 27 年度の処方に関するインシデント報告において、重症心身障害者病棟の発生割合が高く、その原因の大半が「与薬直前の確認を省いた」でした。その原因を分析したところ、理由は「1 回分の薬の袋をホッチキスでひとまとめにしており、処方箋との照合がしづらい」「他の看護師がホッチキス留めをする際にきちんと確認してくれていると思いこむ」「1 回分の薬剤を取り出す際に確認をしてくれていると思いこむ」であると考えました。この改善策として、『1 回分をホッチキス留めしない。』『与薬に関わるスタッフを最少化する』ことで、与薬直前の確認が実施しやすい環境の提供と、人員が最少化することで個々の確認行動に責任が重くなり確認精度があがると考えました。具体的な方法は、他施設で導入されている与薬カートに着目し、市販の与薬カートを参考に当院で廃棄寸前の配膳カートを与薬カートに有効利用（写真2）しました。その結果、市販のものと変わらない効果が得られ、インシデントも減少するなど効果が得られました。

平成29年度 QC活動奨励表彰
国立病院機構 高知病院　チーム名「与薬を安全に行い隊」

今回、栄養管理室で不要になった配膳カートを廃棄せず、与薬カートに使用することで約 140 万円の費用削減と安全な与薬業務につなげることができました。しかし、配膳カートが不要になったことを知らなければ、今回の活動は始まりませんでした。病院の組織は 1 つですが、部門ごとに分かれており、必要最低限の情報しか伝達されません。誰かが、機材の管理を行い、情報伝達やマネジメントをすることで、病院の資源の有効活用ができるのだと感じました。

第8回 院内発表会と表彰式について

庶務班長
田中　通弘

平成 29 年 10 月 11 日（水）に第8回院内発表会を開催しました。この発表会は平成 22 年 10 月に当院の開院 10 周年を記念し第1回を開催して以来、毎年この時期に開催しています。演題については院内募集し、既に各学会や研究会で発表済みの内容でも、未発表の演題でもOKとしております。第8回となる今年は臨床研究部長の声かけにより 20 題の演題が集まりました。発表者の発表5分、討論2分で持ち時間が十分ではない中ではありましたが、会場からの質疑応答も積極的に行われ、活発な発表会となりました。

どの演題もすばらしかったのですが、特に優れていた3つの演題について平成 29 年 10 月 26 日（木）に表彰式が執り行われ、院長から表彰状が授与されました。

≪受賞演題≫

★ Edwardsiella tarda を起炎菌とした子宮付属器膿瘍の 1 例

医局 産婦人科　木下 宏実

★当院における 7 年間の針刺し切創・粘膜曝露事例の現状と課題

看護部　感染管理室　河村 ひとみ

★厚生局から病院へ出向となって

事務部　企画課　西村　純

今後もこのような取り組みを通じて、病院の活性化に繋げていきたいと考えています。

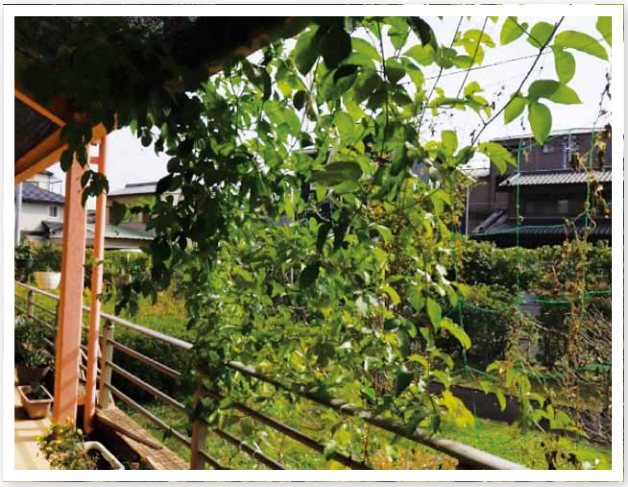
つくし病棟 パッションフルーツ栽培

保育士
恩地　眞由

重症心身障害病棟にはそれぞれテラスがあり、季節の花を育てています。テラスに出て療育をすると色鮮やかな花や緑の葉が利用者さんを楽しませてくれています。

南病棟では毎年植える朝顔やゴーヤの他に今年は新しくパッションフルーツが加わりました。南国のフルーツのイメージで高知にはあまり馴染みのない果物。はじめはちゃんと育つのかと不安もありましたが、素敵な緑のカーテンになる事を期待しつつ栽培を始めました。水をたっぷりあげるのが大事だそうで、利用者さんも一緒に毎日せっせと水やり。夏の日差しを浴びながらすくすく生長し綺麗な緑のカーテンが出来ました！実の方は・・・白い花がチラホラ咲きはじめましたが、最初は出来ず。難しいのかな？と諦めていた頃、緑の葉っぱの間にポツッと小さい実が出来ました。少しずつ増えていく珍しい実をご家族や職員も「あれは何の実？」と興味津々。話題のきっかけにもなりました。

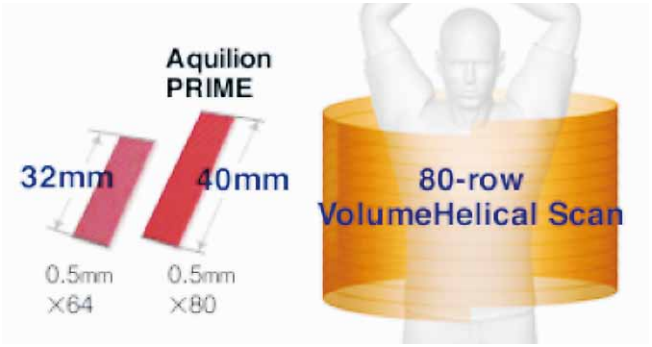
現在、パッションフルーツは寒さに弱いので冬場は一旦お休み。緑のカーテンは見た目にも涼しく、来年もまた挑戦しようと思っています。

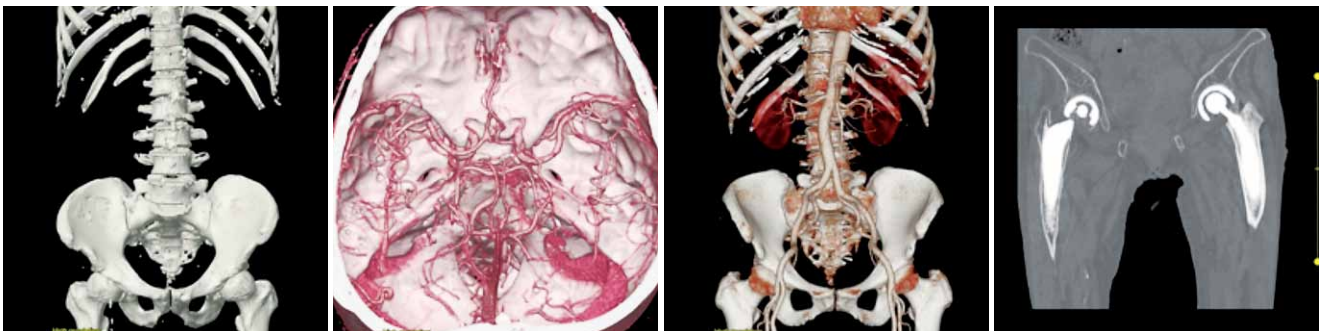


80列/160スライスCT「Aquilion PRIME/Beyond Edition」新規導入のお知らせ

照射主任
定岡　大祐

当院のCT装置を、2018年1月より「Aquilion64（64列）」から「Aquilion PRIME/Beyond Edition（80列/160スライス）」に更新致しました。この装置は、現在国内の多くの施設が導入している64列/128スライスCTを凌駕する装置として期待されており、「撮影能力の向上と高画質」「大幅な低被ばく」「ワークフローの高速化によるスループットの向上」「ガントリの小型化・省エネルギー化」などの特徴を持ち、当院でCT検査を受けられる患者様にとって非常に有益な装置であると言えます。今後は、この新CT装置を駆使し更なる被ばく低減・検査時間の短縮・特殊検査への対応など、より高度な画像提供ができるよう邁進して参ります。





感染管理室だより
看護専門コース公開講座「感染管理分野」

感染管理認定看護師
河村　ひとみ

看護部では平成 24 年度より認定看護師による専門看護研修を、地域の看護職員の方へも公開講座として開催しています。

今年度は感染管理分野においても研修を計画し、院内から 6 名、院外から 8 名の方から申し込みをいただき、開講することができました。感染管理分野の研修は全 7 回で構成し、1 回目から 6 回目までは「感染対策の基本」「職業感染防止」「洗浄・消毒・滅菌」「医療処置関連感染防止対策」などの内容で、私が担当をさせていただきました。7 回目は病棟看護師長を兼任している若林感染管理認定看護師により、「感染症発生時の対応」「サーベイランス」について、豊富な経験をもとにした講義をしていただきました。簡単な修了試験と全講義を受講していただいた院内 4 名、院外 8 名の受講者の皆様には、最終回の 12 月 12 日に修了証をお渡しすることができました。

7 ヶ月という長期間にわたる研修ではありましたが、月に 1 回、受講者の皆様にお会いできることがとても楽しみで、あっという間の 7 ヶ月間でした。私は感染管理認定看護師となり 2 年目でまだ経験が浅いため、受講してくださる皆様にわかりやすく、正しい情報を提供できるよう、資料作成には毎回悪戦苦闘しました。ですがその分、私自身知識の振り返りや整理ができ大変勉強になりました。

今回の研修計画時の私の 1 番の「ねがい」は、「部署での感染対策の実践と推進のためのリーダー性の発揮と確実な実践につながるような研修にしたい」ということでした。研修後受講者の皆様からは、「職場での感染対策に活かせる」「基礎から学べたことが役立つ」「知らないことが多く楽しかった」などのご意見を頂きました。研修を通してそれぞれの部署での感染対策の実践、改善に、少しでも貢献できればと思っています。また、今後はさらに自己研鑽を積み、より分かりやすい講義ができるよう努力していきたいと思います。

医療安全管理室だより

医療安全管理係長
山本　三恵

医療安全の目指すところは、「医療現場におけるエラーを防ぎ事故を防止すること」です。しかし、人間は誰でも間違えるという特性を持っているため、事故を“ゼロ”にはできません。そこで、事故を早期に発見し、早期に対応することで事故を最小限にすることが重要です。

最近、あわや大惨事といった事故が発生しましたね。それは「平成 29 年 12 月 13 日　走行中に焦げ臭いにおいがして運転を中止した新幹線「のぞみ」で、台車に亀裂があることがわかり、国の運輸安全委員会は、重大な事故につながる恐れがあったとして調査を始めた。」という内容の記事でした。皆さんの記憶にも新しいと思います。

新幹線「のぞみ 34 号」は博多駅出発（午後 1 時 33 分）の約 20 分後に小倉駅を発車する際、乗務員が焦げた臭いに気付いた。同 3 時 15 分すぎに岡山駅から添乗した保守担当社員もうなり音を確認したが、東京指令所が「走行に支障がない」と判断し運行を続けたことが問題になっています。JR では『乗客ら 107 人が犠牲になった 2005 年の尼崎脱線事故』以降、「安全最優先」を掲げてきたはずと報道されていました。

異常を発見した際に、その成り行きを予測し、危険を回避する責任が医療者には課せられています。新幹線の事故を教訓に「人は人であるからエラーを起こすもの」と理解し、他人のエラーは自分と無関係と思わず、明日はわが身と置き換え、何を優先すべきなのか、どのように対応すればよいのかを常に考えながら医療に携わっていきたいものです。

看護学校だより

クリスマス会を開催しました

教　員
弘松　洋美

街にはクリスマスの歌や華やかなイルミネーションがあふれ、クリスマスの時期が近付いてきています。少し早めの 12 月 13 日に学生自治会の企画として病棟に入院中の方や外来に通院されている方に、クリスマスの雰囲気を感じてもらいたいと考え、クリスマス会を開催いたしました。学生は聖歌隊とハンドベル隊のグループに分かれ、外来や病棟に出向き、歌やハンドベルの演奏を披露させていただきました。また、今年はもうひと工夫できないかと考え、ギターの演奏を取り入れ、その演奏に合わせて歌を歌いました。実習や講義の合間をぬっての練習となりましたが、本番ではその成果を十分に発揮することができたように思います。きれいな歌声とハンドベルの音色が響いていました。更に学生は、雰囲気を出すためにサンタの格好をしたり、カチューシャや帽子などの被り物をしたり、少しでも病棟の中でクリスマスが感じられるように工夫をして行っていました。

私が担当した病棟では、会場である食堂に車いすや歩行器、ベッドのまま来てくださったり、ご家族の方も一緒に来てくださいました。その中で、一緒に歌ったり、手拍子をしたり、身体を左右に動かしリズムをとったりと、患者さんもご家族の方も楽しんでくださっていました。また、エレベーターを下りた方々も、少し立ち止まり曲を聞いている様子も見られました。闘病の合間に、クリスマスの季節感を感じ、心温まる時間を過ごしていただけたのではないかと思っています。

地域医療連携室だより

看護師長
西本　美香

病棟看護師と共に、退院後自宅訪問に行ってきました。医療依存度の高い小児が、自宅退院することで、退院前から院内スタッフ、在宅医、障害サービス担当者、訪問看護師と情報交換を図り患者・家族の希望に添えるように取り組んでまいりました。今回、訪問看護師に同行し、医療ケアの引継ぎと、ケアの調整や在宅ケアを共同する目的で訪問させて頂きました。自宅に訪問は初めての取り組みであり、在宅で安心・安全に生活するために、多くの在宅サービスが連携を図り、患者・家族を支えているということが実感できました。今在宅での患者の生活を知ることで、病棟看護師も在宅の環境やサポート体制を理解し支援に生かすことができます。今後は、成人の患者への支援も行い、患者・家族の視点に立ったサポートができるように取り組んでいきたいと思います。

高知病診連携フォーラムのご案内

第139回

日時：平成30年1月26日(金)18:30～20:00

特別講演「外科の矜持：Orthodox & Serendipity」

●徳島大学大学院　医歯薬学研究部　消化器･移植外科学　島田　光生 教授

第140回

日時：平成30年2月16日(金)18:30～20:00

高知医療再生機構専門医等養成支援事業

特別講演「日本の結核診療は持続可能か?」

●国立病院機構近畿中央胸部疾患センター　林　清二 院長

場所：国立病院機構高知病院 2階地域医療研修センター

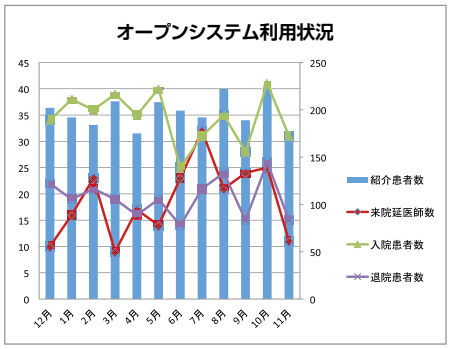
問い合わせ先：地域医療連携室　088-828-4465　**ご参加お待ちしています。**

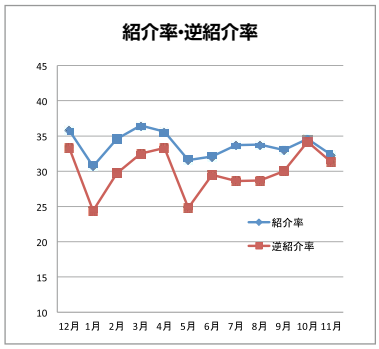
地域医療連携室 ★スタッフ紹介★

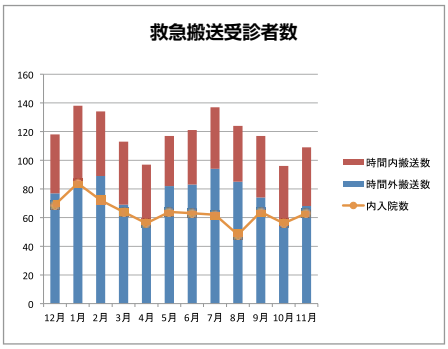
岡林　加奈子

11月より、地域医療連携室で、お世話になっております。今まで、患者さんの退院後を想像したことはありましたが、具体化した退院支援を行ったことがなかったので、只今勉強中です。入院前後の支援に携わる中で、患者さんや家族の考え方が様々で、病気が良くなるだけでは、不十分な場合があるのだと、日々、実感しています。患者さんや家族の、意向に沿える支援ができるように、努力していきたいと思います。徐々にですが、病棟へ退院支援のため訪問するようになります。よろしくお願いいたします。

高知病院地域連携等状況







外来診療担当医表

（平成30年1月19日現在）

■受付時間　8:00～11:00
■休診日 土曜･日曜･祝日･12月29日～1月3日

独立行政法人
国立病院機構　高知病院
〒780-8077　高知県高知市朝倉西町１丁目２番25号
TEL（088）844-3111　FAX（088）843-6385
http://www.kochihp.com

診療科	区分・診察室番号			月	火	水	木	金
内科	午前	1診	⑫	門田･町田（隔週）	田岡･木村（隔週）	井上･今西（隔週）	栗原･岡野（隔週）	畠山･矢葺（隔週）
		特別外来	⑪	松森（糖尿病）	岩原（血液）	松森（糖尿病）	岩原（内科）	松森（糖尿病）
	午後	専門外来				化学物質過敏症（予約制）		
神経内科			⑰	不定期（院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。）				
呼吸器内科 アレルギー科	午前	1診	⑧	篠原　勉	大串　文隆（予約制）	畠山　暢生	大串　文隆（紹介のみ）	岡野　義夫
		2診	⑥			田岡　隆成	町田　久典	篠原　勉
		3診	⑫			大串　文隆		門田　直樹
	午後	専門外来					禁煙外来 14:00～15:30（予約制）	
消化器内科	午前		⑨	井上・中西	池田　敬洋	栗原　健士	井上　修志	池田　敬洋
循環器内科	午前		⑦	山﨑　隆志	西村　直己		山﨑　隆志	
	午後					髙橋 友香里 奇数週のみ診察 受付13：30～16：30	ペースメーカー（第2木曜）	
リウマチ科			⑩	松森　昭憲 （糖尿病も診察）		大串　文隆 （予約のみ）		松森　昭憲 （糖尿病も診察）
小児科	午前	1診	①	武市　知己	大石　尚文	武市　知己	小倉　英郎	大石　尚文
		2診	②	大石　尚文		寺内　芳彦	武市　知己	高橋　芳夫
		3診	③	寺内　芳彦	井上　和男	小倉由紀子	井上　和男	
	午後	専門外来		神経・アレルギー （第2月曜 医大循環器）	アレルギー 循環器	乳児健診	アレルギー NICUフォローアップ	神経･内分泌･腎臓 乳児健診
		予防接種		14:00～16:00 （予約制）	14:00～16:00 （予約制）	14:00～16:00 （予約制）	14:00～16:00 （予約制）	14:00～16:00 （予約制）
外科 消化器外科	午前		⑤	吉川　雅登	福山　充俊 （乳がん検診も実施）	山崎　誠司	福山　充俊 （乳がん検診も実施）	花岡　潤
	午後	専門外来		吉川　雅登 （ヘルニア外来）13:00～14:00	福山　充俊 （乳腺外来）		日野・福山 （乳腺外来）	花岡　潤 （肝臓･胆道･膵臓外来）
整形外科	午前		①	福田　昇司		小林　亨	福田　昇司	合田有一郎
	午後			骨粗鬆症（予約制） 13:00～15:00			田村　竜也	
脳神経外科	午前	1診	⑧	非常勤（10:00～12:00）		非常勤（9:00～11:00）		
呼吸器外科	午前		⑦		先山　正二		先山　正二	坂本　晋一（予約制）
					日野　弘之		日野　弘之	
小児外科	午前		⑤					
皮膚科	午前		⑬	高橋　綾	高橋　綾	高橋　綾	高橋　綾	高橋　綾
泌尿器科	午前		⑨	渡邊　裕修	大河内寿夫	佐竹　宏文	渡邊　裕修	佐竹　宏文
				佐竹　宏文 （10:00～12:00）				大河内寿夫 （10:00～12:00）
産科	午前		㉟	滝川　稚也	福家　義雄	福家　義雄	小林　文子	予約制
	午後			小林（超音波外来）（予約制）				
婦人科	午前		㉛	木下　宏実	小林　文子 子宮頸がん検診（予約制） （10:30～11:30）	木下　宏実	滝川　稚也 子宮頸がん検診（予約制） （10:30～11:30）	木下　宏実
	午後					小林　文子（完全予約制）		思春期外来
眼科	午前		㉓	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子
耳鼻咽喉科	午前		⑯	岩﨑・内藤	岩﨑・内藤	岩﨑・内藤	岩﨑・内藤	岩﨑・内藤
	午後							
リハビリテーション科								
放射線科				小松　幸久	塩田　博文	小松　幸久	塩田　博文	小松　幸久

※内科の１診は、月曜日から金曜日まで全て、医師１名担当の交代制となっています。
※市町村発行のクーポン券を利用される乳ガン検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。